

もったいない！未来のために
母の視点で よりも で見直し
次世代に借金、リスクを残さない

県議会議員 西村久子 県政報告

第2号

発行 西村久子

彦根市甲崎町

TEL・FAX 43-4700

Eメール hisako@country-farm.net



今日よりも明日

夢中で過ごした6ヶ月、彦根から大津へ・・・窓の景色はすっかり秋、紅葉も日ごとに深まっていく頃、各地で文化的行事が盛りだくさん開催され、落ち着いた人々の動きが秋ならではの装いを呈します。とりわけ暑かった夏、厳しい選挙戦、国民の怒り・不満をしっかり受け止め、中央も地方も、誠実に議論を重ね、裏切らない政治でなければとつくづく思います。新幹線新駅は、多くの課題を残し合意が得られないまま中止となりました。かって琵琶湖空港がストップしたことにより、今なお残るリゲイン予定地の土地利用についても、進展ないまま今日に至っていることからも、行政不信が深刻なことに危惧します。今後は中止だけではない課題解決に向け、全力を挙げて取り組まねばと考えます。いろいろなご意見をお聞かせください。



九月定例議会より抜粋

補正予算

水産基盤整備事業費 100,000千円(現計予算額214,372千円)

漁場環境保全整備事業として、魚類産卵繁殖場となる造成ヨシ帯の機能強化を図ると共に、瀬田しじみ漁場の拡大を目指し、ヨシ帯沖の覆砂事業を実施する。国、県関係機関等による「南湖湖底環境改善事業が具体化し、国の支援の下、覆砂事業が可能となったことに伴う増額。

みずべ・みらい再生事業費(南湖湖底環境改善事業に限る。) 20,000千円

琵琶湖の南湖を健全な生物生息空間、豊かな漁場に再生するため湖底地形の調査を行う。

・・・今日まで湖底約400haにわたって砂利採取があこなわれてきました。今回その状況を調査すると共に2.5ヘクタール湖底を平らにし瀬田川の砂で覆砂し、瀬田しじみの復活を行おうとするものです。



一般質問

グリーンツーリズムについて

晴耕雨読の明け暮れ・・・といかにも羨ましい人の生き方、一年には猫の手も借りたいといわれる農繁期があり、又ゆったりと時の流れる農閑期がある。いとも自然にかなった農業・農村の姿であったのは、ずいぶん昔のこととなってしまいました。今日では、農家は一年中忙しく、自立自立といいながら、政策に振り回されている。ぼやいているのは、農村で農業をやっている人とは、何と皮肉な矛盾であります。しかし一般的に農村は、豊かな自然の中で一番人間らしい暮らしの出来るところ、何よりも美しい水と空気、まばゆいばかりの緑とその環境をうらやむところも確かにあります。

少しの家庭菜園があって、辺りは静かな住環境、少し走ればスーパーがあり娯楽施設もある。生活の根柢はサラリーマン。豊かな緑は広大な庭、・・・農村に住む方は、きっとそうお感じであると思います。

そんな農村を誇りに思って・・・・季節を感じにいらっしゃいませんか。

自然の残る河川敷、この地に住む私でも毎日毎日が感動です。

春、こぶし、うわみずざくら、藤が競うように咲き、

夏、のかんぞう、おにゆり、ねむのきが可憐な花を咲かせ

秋、実りのとき、栗、こぶし、ノバラ、アケビが実をつけます。

冬、真っ白な雪の中に咲く赤い椿の花。

時として渡り鳥の群れに出会う。こんな自然を体感してみませんか。ゆったりとした時間の中で、感動がきっと見つかります。・・・と、グリーンツーリズム、田舎体験のお誘いであります。

しかし、志はあってもいざ宿泊していただくとなると、まず、都計法によって市街化調整区域に旅館のごときものは建てられない、民宿を行い宿泊や食事提供しようとすると、さまざまの法令の制限のあることに驚きます。

田舎体験とは、農村に今ある空き家を活用し畠を貸農園として提供、近くの川で取った魚や、とれたての野菜でもって自炊、農家の主婦たちとの交流によって漬物や味噌等季節の加工食品作り、子どもたちにはかぶと虫つかみの楽しみや、せみの脱皮の感動に驚く姿を想定して、ドキドキの企画をされたのであります。現実法の壁厚く進めることができません。グリーンツーリズムや田舎体験は農水省や食育の中でも推進さ

れていることでもあり、農村のよさを目いっぱい活用して農業・農村の振興を図るためにも、もっと規制の弾力的な運用が必要になります。神社仏閣も多く歴史文化に造詣深い滋賀、周囲を山に囲まれ、日本一の琵琶湖を持つ滋賀の農村こそ、こうした振興策はもっと活用できるのではないかでしょうか。ある女性がこんなことを言っておいででした。「お金がないのはよくわかった。だからお金をあまり使わずに嘉田知事さんに、宮崎県知事のように、もっともっとテレビに出てほしい。もったいないの滋賀県知事、滋賀に行けばこんなすばらしい環境があった。滋賀の体験してこなきゃもったいない。・・・となるようどんどんPRしてほしい。後は、我々が頑張る」とのこと。グリーンツーリズム研究会を各地で開催し、「こうしたらできますよ!」といったマニュアルを示して指導され、志を同じくする人々があちこちから挑戦できれば、知事がよく言われる地域の宝がもっと光り輝くのではないか、滋賀の宝を輝かせるためにも、特区制度を活用して滋賀だからできるグリーンツーリズムを検討するのも一考だと思いますが、どうでしょうか。

併せて、農家民宿の交流研究会を実施され、マニュアル化へ努力いただいているようですが、推進状況を農政水産部長にお尋ねします。

答 農政水産部長 グリーンツーリズムを進めようとしますと、さまざまの法令の制約を受けることはご指摘のとおりであります。サービスの品質を確保し、信頼される取組とするためにはやむを得ない面があります。一方では、交流体験の企画に取り組みやすい環境を整え、チャレンジする人を増やすような施策展開も必要であって、交流活動を育成するためのスクールを開講しております。本年度からは、米原市において、空き民家の有効活用を検討する地域住民への支援を行ってあります。また、農家民宿に関連する諸法令を所管する各部担当者で「滋賀県都市農山漁村交流研究会農家民宿検討部会」を立ち上げまして、開業しやすい仕組み作りの検討に着手しており、その成果について、今年度中に「農家民宿開業の手引」として取りまとめ、農家の皆さんに広報してまいります。特区制度の活用については、ただいま申し上げましたような施策を推進する中で、地域での取り組みを応援するために、都市住民との交流の促進に有効かどうかといった視点から、研究してまいりたいと考えております。

西村久子事務所

彦根市甲崎町19-1 (稻枝北駐在所より西へ約100m 南側道路沿い)
定例政調会 第1土曜日 午後7時~10時

ご意見をお聞かせください。 Tel 0749-43-2020 Fax 0749-43-4700

湖政会行政視察

第25回 北方領土視察団参加報告

期 間 平成19年10月16~20日

視察地 根室 知床 札幌（海上より北方領土視察 根室市民との交流 北海道庁訪問）

昨年、歯舞群島付近の海域で、日本のカニかご漁船がロシア警備艇の銃撃を受け、若い乗組員1名が死亡するという痛ましい事件が起こりました。遠く離れた地から見れば、そんな領域を超えるところまで行くからや・・・と気持ちのどこかに無責任な思いのあったことも確かありました。・・・しかし、訪ねた北の領地は、北海道最東端の根室市納沙布岬から一番近い貝殻島まで3.7キロメートル、琵琶湖の中央にある竹島や沖の白石よりもっと近くに、手の届きそうなところにありました。

日本とロシアの境界線はその半分、約1.5キロメートルを超えてはいけないこととなります。暖流と寒流の接する北方領土の海域は、世界三大漁場のひとつに数えられ、港を出た漁船はその方向を定めきるまでにこの危険区域に到達することとなります。決して横着でなく、まして、日本国民が父祖伝來の地として受け継いできたもので歴史的にも国際的取り決めから見てもわが国固有の領土であるのに、理不尽な占領は誠に遺憾、だら捕・銃撃に脅かされることは、憤慨やるかたない思いであります。国民一人ひとりが問題の正しい認識を深め、北方四島の一括返還の一日も早い決着を願い、日ロ平和条約締結を願うものです。

北方四島	歯舞群島	色丹島	国後島	択捉島	計
北方領土	100km ²	253 km ²	1,499 km ²	3,184 km ²	5,036 km ²

日本最大の島沖縄本島の1,206 km²よりも広く、愛知県の5,123 km²と同等の面積を持つ。



双眼鏡で見えるロシア監視所

北方四島の国際的なきまり

日露通好条約（1855年）

日本とロシアの国境をウルップ島と択捉島の中間と決め、樺太は両国民混住の地と決めた。

樺太千島交換条約（1875年）

明治時代に入ると国境を決めていなかつた樺太にロシア人が多く入ってきて争いが絶えなかつたため樺太をロシア領とし、交換にウルップ島より北の千島列島全部を日本の領土と決めた。

ポーツマス条約（1905年）

日露戦争（1904年）後の取り決めで、樺太の南半分が日本の領土となった。

サンフランシスコ平和条約（1951年）

第二次世界大戦後、日本は平和条約に調印し、南樺太・千島列島を放棄したが、歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の四島はもともと日本の領土であり、放棄した千島列島にこの四島は含んでいない。

「北方領土の日」の制定

北方領土の返還を求める多くの人たちから、返還運動を盛り上げるため（北方領土の日）を設けるべきだという強い要望を受けて、1981年（昭和56年）政府は、2月7日を「北方領土の日」とすることを閣議了解した。2月7日は、1855年（安政5年）日ロ両国の国境を平和裏に定めた「日露通好条約」が、伊豆の下田で署名された日。

北方四島との交流

北方四島への墓参が、1964年（昭和39年）歯舞群島、色丹島に、1966年（昭和41年）国後島、1990年（平成2年）択捉島にできるようになつた。

ビザなし交流

北方領土問題を平和的に解決するために、日本人と北方領土に住むロシアの人々があ互いに理解しあい友好を深めることが必要ということから1992年（平成4年）に「ビザなし交流」が始まり、今までに日本からは7,796人が四島を訪問し、ロシアからは6,070人が日本を訪れている。1999年（平成11年）から、元島民とその家族が故郷を訪れる北方四島への自由訪問が行われている。



この海の向こうに… 中谷哲夫



現地の人々との交流会… 西村久子



北海道庁で意見交換



北海道庁

えている。領土返還は国と国の難しい問題であり、日本の立場を粘り強く主張していくことが大切。国民の返還要求世論の更なる高まりで、政府間の外交交渉の進展により、北方四島が速やかに平和的返還されることを心から願うものです。

北海道は、われわれ滋賀県人の先祖、近江商人（薩摩出身の宮川権右衛門や柳川出身の田付新助、建部七郎右衛門、さらに近江八幡の岡田惣右衛門、西川伝右衛門）は両浜商人と呼ばれ、広く交易を始めた地であり、格別縁が深い。琵琶湖から日本海の荒波を越え、松前からさらに遠く国後・択捉に至るまで勇猛果敢に交易を進めてきた姿勢は、畏敬の念を新たにする。現在北方四島には、あおよそ17,000人のかって日本人が住んでいたのと同等のロシアの人々が住み続けている中で、すでに占領されて60年、返還実現へ向けての署名活動も全国内7,900万人を超